



九州大学2023年度公開講座 言語文化研究院主催

世界の新語から紐解く 令和の4年間

11月18日(土)~12月16日(土) 毎週土曜日(計5回) 10:30-12:00

対面(九州大学伊都キャンパス)・オンライン同時開催

コロナ禍、戦争、世界的な物価高。元号が平成から令和へと変わるのとほぼ時を同じくして、世界はその在り方を大きく変えました。そして、社会と言葉は不可分であり、急激な社会の変化に伴い数多くの新語が生まれました。「三密」、「人流」、「あうち〇〇」、「ウェビナー」、「チャット型 AI」、等、こうした新語はそのまま新しい時代のキーワードにもなり得ます。本講座では、本研究院所属の教員が、専門とする地域で生まれた新語を紹介しながら、それぞれの地域の激動の四年間を振り返り、展望します。

受講対象者 ▶ 興味のある方ならどなたでも結構です。 定員 ▶ 35名 受講料 ▶ 1,000円

申込方法 ▶ 下記のURLまたは右記のQRコードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/AiuwDapSVL>

申込期間 ▶ 9月1日(金)~10月31日(火)

お申し込みいただいた連絡先に受講料の振込先等をご連絡いたします。

お申し込みから1週間以上経っても連絡がない場合は、お問い合わせ願います。

※個人情報は公開講座の運営および公開講座に関する情報を送付以外の目的には使用いたしません。

修了証書 ▶ 所定の時間数を受講された方に修了証書を授与いたします。



世界の**新語**から**紐解く** 令和の4年間



第**1**回 11月18日(土) 10:30-12:00

 **スペイン**

—**-fobia 何を嫌い、恐れるのか**—

Aporofobia, turismofobia, yatrofobia 等、ここ数年、スペインでは -fobia (フォビア) という語尾の言葉が急激に増えました。この語尾は「嫌悪・恐怖」を表すものです。本講義ではこの数年の間に生まれた -fobia のつく語を概観し、現代のスペインに生きる人々が、何を嫌い、恐れているのかを考えます。

蔦原亮

(九州大学大学院言語文化研究院 准教授)

第**2**回 11月25日(土) 10:30-12:00

 **英語圏**

—**Intersectionality 交差する場所から問う**—

近年、英語圏では #MeToo 運動や Black Lives Matter 運動などを経て、複数の権力関係が交差する状況を表す “Intersectionality” (交差性) への関心が高まっています。本講義では、この語の背景や議論を紹介するとともに、多様性や包摂に関連する新しい言葉や代名詞の用法の変化についても取り上げます。

西あゆみ

(九州大学大学院言語文化研究院 助教)

第**3**回 12月2日(土) 10:30-12:00

 **フランス**

—**iel 「性」を選ばないという選択**—

文法上の「性」が強く意識されるフランス語では、「私」は常にどちらかの「性」に所属することを強いられます。この講義では、そうした伝統的な文法規則がLGBTQの意識が高まる近年問い直されている様子を見ていきます。

倉方健作

(九州大学大学院言語文化研究院 准教授)

第**4**回 12月9日(土) 10:30-12:00

 **中国**

—**润(rùn) 日常実践としての離脱**—

激しい競争を繰り返す中国社会の様相は、近年、しばしば「内卷(nèijuǎn, インボリューション)」で表現されます。一方、過度なストレスを忌避し、「躺平(tǎngpíng, 寝そべり)」というスタンスを選ぶ若者も増えてきました。本講義では、関連する新語・流行語を紹介しつつ、第三の選択と言われる「润(rùn, 離脱)」について考えます。

呉修喆

(九州大学大学院言語文化研究院 助教)

第**5**回 12月16日(土) 10:30-12:00

 **ロシア(ソ連)**

—**”быт”(バイト) 破壊の対象か、建設の場か**—

ロシア革命後のソ連では、「быт”(バイト) (日常生活) という言葉がにわかに注目され、この概念をめぐる知識人たちの間で活発な議論が展開されました。この議論を手がかりに、ソ連に生まれた新たな世界観の諸相について考えます。

佐藤正則

(言語文化研究院 教授)